



JUMP ! *JUMP!*



大山鎬則

登場人物

華木陽子..はなきようこ (38歳)

神田健吾..かんだけんご (28歳)

水寄静江..みずよりしずえ (45歳)

土持裕樹..つちもちゆうき (29歳)

桐井香子..きりいきようこ (23歳)

森田ひな..もりたひな (17歳)

林梨香.. はやしりか (42歳)

勝見武.. かつみたけし (37歳)

赤松義信.. あかまつよしのぶ (26歳)

シグナルズ 9thLive

「JUMP-」

作・大山鎬則

JUMP !

登場人物

華木 陽子 (38)

神田 健吾 (28)

水寄 静江 (45)

赤松
義信 (26)

勝見
武 (37)

林
梨香 (42)

森田
ひな (17)

桐井
香子 (23)

土持
裕樹 (29)

一景

華木陽子と神田健吾が付き合うことになった夜のこと。

2008年、8月。

二人は、陽子の自宅に程近いバーで飲んでいる。

陽子が勤めていた会社を体調不良を理由に辞めて、一年程経っていた。

そこにかつての後輩、健吾が不意に訪ねて来た。

陽子が会社を辞める前に、最後に面倒をみて可愛がっていたのが健吾だ。

陽子は会社を辞めて以来、人と会うことも話すことも必然と
少なくなり、そこに健吾が訪ねてきたので嬉しい様子だ。

陽子はビールを、機嫌よさそうに飲んで息をついた。

健吾は携帯電話の画面を気にしている。

陽子 もうやめちゃえって。

健吾 だってタクシーはやばいっすよ。

陽子は健吾の携帯を取り上げる。

健吾 明日は遅刻できないんですよ。

陽子 なんで？

健吾 朝一で会議だから。

陽子 (小さく笑う)

健吾 なんすか？

陽子 あの神田が会議で遅刻できないか。なんだいつちよまえ か？

健吾 いつちよまえですよ。

陽子 神田がいつちよまえかあ。

健吾 まあ。

陽子 そうかあ、あの神田がなあ。私ね。

健吾 なんですか？

陽子 あんたはもう絶対に辞めてると思ってた。

健吾 なんすか、酷いなあ。

陽子 だって、平気で遅刻はしてくるわ、何か言われればふてくされるわ、なんとかサボろうとするわ、

こいつは絶対

駄目だって思ったもんね。

健吾 まあ、あの頃は、でも変ったんです。

陽子 よく変れたね。

健吾 それについては、華木さんに感謝してます。

陽子 何で？

健吾 ずっと聞きたかったんですけど。

陽子 なに？

健吾 華木さんが辞める、最後の企画、何で俺があの位置だったんですか。

陽子 ああ。

健吾 あれ、順番から言ったら鴨居さんでしょ？何で新人にあの仕事任せたんですか？案の定プレゼン負けて。相当課

長に言われたらしいじゃないですか。

陽子 なんでまともにやらなかった、まともにやればあんな

ら勝てただろ、辞めるからって投げてんじゃねえよ、負けるにしたってちゃんとやった上で負けるよ、

課長さ いつもならああいう時はさ、怒鳴るじゃん。でもあの時

は怒鳴らないのが逆に怖くてねえ。あれは怒りを通り越して呆れてたんだね。あの時のことは一生忘れ

ないな。健吾 なんでまともにやらなかったんですか？

陽子 神田を残して行きかけたんだよ。

健吾 え？

陽子 あんた、マジであのままだったら辞めてたでしょ。

健吾 ……それは、まあ。

陽子 あんたが志望の業界に行けなくてふてくされてるのはよ

く分かった、でもそんなことでふてくされてたら結局ど こにも居場所が無くなる。それを、何とかしてやりたかった。口で言っても分からないでしょ？だから、仕事任せたの。余計なお世話かもしれないけどさ。

健吾 余計なお世話じゃないっす。

陽子 そう？

健吾 ええ、俺、あそこで華木さんに仕事任されなければ、今 頃フリーターです。

陽子 そうか。

健吾 何で、あそこまでしてくれましたか？

陽子 最後の仕事だと思って、育てたかったんだよ。例えば今の企画あんたが勝てればさ、それは私の功績ってことに もなるじゃん、ちよつとはさ、ならないか。

健吾 いや、なります。

陽子 ……。

健吾 なりますよ、間違いなく華木さんの功績ですよ。

陽子 そう？

健吾 ええ、俺はそう思ってますから。だから頑張りますよ。

陽子 そうか。

健吾 ええ。

陽子 そうか、もう一杯行こう。

健吾 ええ？まだ飲むんすか？俺、終電……。

陽子 もう一杯、もう一杯だけ。終電までにちやちやっと。

健吾 分かりましたよ。

二人は、飲み物を注文する。

健吾 辞めてから、どうしてたんすか？

陽子 しばらくはブラブラしててね。

健吾 ブラブラか、いいな。

陽子 よくないよ。

健吾 そうすか？

陽子 しばらくは気楽でいいなんて思ってたけど、いつ起きて

も、いつ寝ても、いつ食べても、誰にも何にも言われ ない生活なんて、長続きするもんじゃないよ。張りが無

くてさ。

健吾 そうかな、最高に思えますけどね。

陽子 あんた今充実してるんだよ。

健吾 俺が？

陽子 役割があって、充実してて、そういう時は逆にそのことに気付けないんだって。

健吾 聞いてなかったですけど、華木さんって何で辞めたんですか？

陽子 ストレス。

健吾 何のストレスですか？

陽子 まあ、あの会社にも10年居てさ、充実はしてたんだろ
うな、そこそこ頼りにもされてたしさ。

健吾 そこそこどころじゃないでしょ、華木さんでかなり稼いで
だって言っていましたよ、課長。

陽子 うん。

健吾 華木さんの作った社員食堂で飯食ってる奴、いっぱい 居る訳じゃないですか。

陽子 そうだね。

健吾 今俺、分かりますよ、それって結構凄いことだって。

陽子 言うようになったねえ。

健吾 言いますよ。

陽子 だからなんだよな。

健吾 え？

陽子 仕事でそこそこ充実して、それで、先が見えたような

気がした。これで一生終わるような気がして、怖くなっ
た。

健吾 なんか、やりたいことでもあったんですか？

陽子 いや、別にそういう訳じゃないけどね。ああ、このまま

で一生終わりかと思ったら、急に怖くなった。何故か。 贅沢な思いだったのは分かってたけど、我慢が
できなか

った。

健吾 そういふもんですか。

陽子 ふてくされちゃったんだよ。

健吾 え？

陽子 これで終わりって、つまんないよって。

健吾 俺に言ってたのと逆じゃないですか。

陽子 そうだね。

健吾 女の人にそういうのって、珍しくないですか？

陽子 もともとそういうところあるの。うちって一人っ子でさ、

親は当然、地元で就職するもんだと思ってたし、東京行ってもしばらくしたら戻ってくるもんだと思ってたろうし。でもね、決められると窮屈に急に感じるんだよな。

健吾 華木さんて、どこでしたっけ。

陽子 静岡、沼津ってところ。うち、夜になると本当に真っ暗

だよ。何にもなくて、ここで一生終わるのだけは、ごめんだって、小さい時から思ってた。もつといろんなものに出会いたい、もつといろんなことに触れたいって、そればかり思ってた。ぶわくつと広がる田んぼを見なが

ら、何にもないなあって、思ってた。結局それは今でも 治ってないんだな。

健吾 ここではないけどどこかへとく、ですか？

陽子 なんだっけ、それ？

健吾 グレイですよ。

陽子 うわ、古っ。

間。

陽子 まあでも、辞めたからって、何か見つかったって訳じゃないけどね。

健吾 辞めなきゃよかったって、思うことってありますか？

陽子 あるね。

健吾 あるんだ。

陽子 まあ、それも、でも、辞めなきゃ分からなかったことだしね。

健吾 俺は、寂しかったですけどね。

陽子 え？

健吾 華木さん、辞めちゃって、もっと一緒に居たかったですよ。

陽子 嬉しいこと、言ってくれるね。

健吾 いや、本当に。俺、好きでしたから、華木さんのこと。

陽子 . . .。

間。

陽子 神田。

健吾 はい？

陽子 わざわざ訪ねてくれて、ありがとう。嬉しい。

間。

健吾 ……今はどうしてるんですか？

陽子 この近くの、喫茶店で働いてる。

健吾 華木さんが喫茶店ですか？

陽子 この辺りの土地持ちが道楽でやってるような店でさ、厳しくなくて、のんびりしてて、今の私には丁度いい。

健吾、携帯を見て。

健吾 うわ、マジ終電やばい。

陽子 神田。

健吾 何すか？

陽子 終電なんて、気にする必要なんてないよ。

健吾 え、でも……。

陽子 中途半端に一人にするなよ。

健吾 ……。

陽子 訪ねてくれたんなら、最後までそばに居ろよ。

健吾 でも、それはやばいですよ。

陽子 やばくない。

健吾 ……。

陽子 さっき、好きだって言ったじゃないか。

健吾 それは……。

陽子 好きだから、問題ない。

健吾、立ち上がる。

陽子 行くの？

健吾 トイレですよ。

健吾、行く。

陽子、テーブルに頬杖ついて、目をつぶる。

と、森井ひなが現れて。

ひな これが、陽子さんと、健吾さんが付き合うことになった 夜のことです。二人はこの後一緒に住むことになります。陽子さんは、私に健吾と居て本当に楽しかったんだと、話してくれました。モノクロの世界に彩が、手ごたえの 無かった生活に、手ごたえが表れたと、言っていました。だからこの後の物語は、その楽しかった生活のお話しに なるといいいのですが、そうとばかりは行きません。この後のお話は、陽子さんが迎えた、二回目の岐路のお話し です。

試し読みしていただけるのはここまでです。

この続きは商品をご購入の上ご覧下さい。

JUMP！（おためしサンプル）

2012年10月6日 初版発行

2012年10月7日 改訂（ver.1.001）

著 者 大山鎬則 © 2012年

発行者 石村寛之

発行所 有限会社レトロインク

〒181-0001 東京都三鷹市井の頭4-26-7

電話 0422-49-2903
